

自治体名	新宿区
------	-----

女性の健康支援対策の概要

性別の差異を考慮し、各世代に応じた適切な健康づくりへの取組みが重要と考え、平成21年度から区の実行計画事業と位置づけた女性の健康支援事業を実施している。

思春期から30歳代を対象とした事業では、成人式での女性の健康づくり冊子の配布、普及啓発用ブックカバーの作成及び配布、女性の健康週間フォーラムの開催を行った。

中高年期を対象とした事業では、食育イベントの中で女性の健康コーナーを設け、乳がん自己検診方法の指導や乳がん健診等の受診勧奨、普及啓発を行った。

また、女性のがん検診普及啓発事業として、がん検診無料クーポンの配布、ピンクリボンデー（10月1日）でのブースの出展やバナー掲出による乳がんの早期発見・早期治療の重要性を伝える啓発活動を行った。

自治体の特徴

新宿区は、約3万3千人の外国人登録人口（平成21年1月時点）を有する多国籍・多分化共生のまちである。また、にぎわいのある繁華街の東口、高層ビル群の立ち並ぶオフィス街の西口、落ち着いた佇まいの住宅街を有する落合、そして歴史の残る石畳の街神楽坂と多様な顔をもつまちである。

人口構成・(H21.1.1現在)

	総数	住民基本台帳による人口		外国人登録人口
		男	女	
人	314,592	140,609	140,428	33,555
割合(%)		44.7%	44.6%	10.7%

15歳未満	23,726	12,124	11,602
15～64歳	199,972	105,310	94,662
65歳以上	57,339	23,175	34,164
75歳以上	27,278	9,504	17,774
85歳以上	7,448	2,125	5,323

女性に関する健康課題

区内4箇所の保健センターで実施した「女性のための健康相談アンケート」（平成21年11月から平成22年1月に調査）では、「過去2年間に子宮がんの検診を受けていない」と回答した者が58.9%、「過去2年間に乳がんの検診を受けていない」と回答した者が51.0%であった。また、更年期を対象とした項目では、「肩こり・腰痛・手足の痛みがある」が38.8%、「眼が疲れる」が33.4%、「腰や手足が冷える」が30.9%であった。その他にも、「月経痛が強い」、「おりものが気になる」、「生理不順」などの回答もあり、女性特有の症状について悩みを抱えていることも見受けられた。

区が実施しているがん検診においては、子宮がん検診の受診率が10.4%、乳がん検診の受診率が13.2%（平成20年度実績）と共に低い受診率であり、受診率向上のため、受診勧奨や普及啓発活動を行うことが重要であると認識している。

事業費（千円）

(1) 女性の健康支援普及啓発	4,259千円
(2) 女性のがん検診普及啓発	585千円
(3) 女性の健康支援に関する専門部会	140千円
計	4,984千円

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	女性の健康週間フォーラム～いつまでも健やかに輝いて～
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 ■健康相談
事業費(千円)	291千円

事業目的

女性の健康週間(3月1日～8日)において、女性が、生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を過ごすことができるよう、健康支援やがん予防の推進等を行うことを目的とし、区民が参加できるイベントフォーラムを開催した。

事業対象

思春期から中高年期の女性

事業実施体制・展開

■事業実施内容

(フォーラム実施内容)

①マンモグラフィ検診車の展示及び技師による説明

専門の検診技師による説明及び検診の普及啓発を行い、乳がん検診受診率の向上を目指す。

②乳がん触診モデルを用いた自己検診の指導及び保健師・栄養士による健康相談

保健師による乳がん触診モデルを用いた自己検診指導や栄養士による骨粗しょう症予防など、女性自身が健康の自己管理を行うことができるよう適切な健康教育や相談を実施する。

③心の健康を目的としたリハビリメイクの体験

女性の元気を引き出す「リハビリメイク」を行い、社会復帰やQOLの向上につながる支援をする。

④体操講座(ヨーガ、骨盤体操、ラテンコアダンス)

財団法人 新宿区生涯学習財団(平成22年4月1日より、公益財団法人 新宿未来創造財団に名称変更)で人気の高い、ラテンコアダンス、骨盤体操、ヨーガの各講座を実施する。

■実施体制

①、③、④については、より効果的に事業を実施するため、実績ある事業者へ業務委託を行う。

②については、区の職員(保健師、栄養士等)にて対応する。

事業目標・評価項目 及び その結果

①来場者数 約102人

②イベント評価 期待以上 78.9%、期待通り 19.3%、普通 1.8%

③乳がんに関する知識・予防等の普及啓発を目的としたクイズの正解率 平均正解率 64.7%

④マンモグラフィ検診車による説明コーナーの参加者数 49人

⑤自ら運動による健康づくりができるための体操講座の参加者数 61人/定員75人(事前申込89人)

※イベント開催日当日は雨天であったため、当日のキャンセルが多数あった。

事業の工夫点

専門家や講師による講演会・講座などの一方通行の普及啓発事業ではなく、イベントに参加する方々が、自ら体験でき、楽しんでもらえる内容にするという視点で検討を行った。また、予防医学的な指導や健康相談、心のケアにつながる美容、日常生活でも行える体操など、多様な面で健康づくりにつながるイベントを実施した。

事業の効果についての評価・考察

女性の健康支援専門部会において、委員より本事業の効果について下記評価があった。

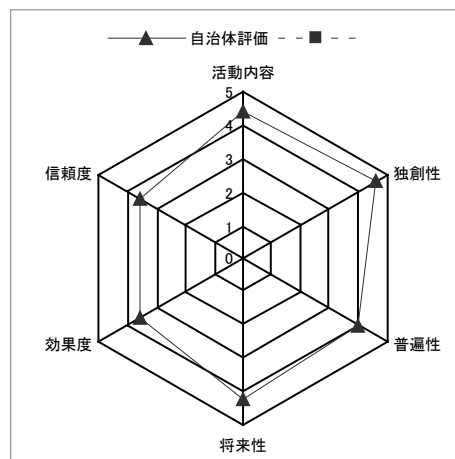
- ①乳がん、体操、心の健康と多岐に渡ったイベント内容で、1対1で説明等の対応を行っていたため、理解を深める良い機会となり、大変効果的なイベントである。
- ②来場者数及び来場者アンケート結果から、女性のみを対象としたイベントとして良好な効果を残した。内容も多形態の教育方法を試み、成功している。
- ③乳がん触診モデルは僅かに触れる乳腺としこりが実物に近く、自己触診を行う上で大変勉強になった。(イベントに参加された委員より)
- ④自分の関心あるブースで、丁寧に専門家から指導が受けられるという企画は大変良い。
- ⑤新宿区の企業も参加しており、行政・企業が協力して実施したことで、新宿区ならではの企画だったといえる。
- ⑥知識の普及啓発に加え、参加型の実践指導が多く組み込まれた点でオリジナリティが高い。

今後の課題

イベントに参加したことで、本人の健康に関する意識に変化があったか否かを問う内容を盛り込み、その結果を今後の事業に活用できるようなアンケート項目を設置すべきであったと考える。また、雨天により当日の申込キャンセルが多く発生したから、天候の影響を受けない場所での開催を検討すべきである。

ホームページ	http://www.city.shinjuku.lg.jp/
照会先	新宿区健康部健康推進課 健康事業係 03-5273-3047

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.4	女性の健康を多面的にサポートしており、特に乳がん普及啓発のためには大変有効である。
②独創性	4.6	参加型イベントで個別の対応を行っていることが評価できる。
③普遍性	4.0	地域の企業などの参加を促し、その地域に応じた支援として応用ができる。
④将来性	4.2	区内各所において、当該事業を展開していきながら、区民のニーズに合わせた事業として期待ができる。
⑤効果度	3.6	参加者の感想から、肯定的な意見が多かったため、短期的な効果があった。
⑥信頼度	3.6	事業内容報告及びアンケート結果から、信頼度は高いが、評価指標に対するデータが不足している。



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	「しんじゆく食育フェスタ2009 ～見て 食べて 笑って やさいの力を発見～」 における女性の健康支援コーナーの運営
分野	■知識の提供 ■健康相談 ■情報提供
事業費（千円）	893 千円

事業目的

区が開催する食育フェスタにおいて、女性の健康支援コーナーを設け、健康上の悩みや問題に対処するための知識の提供、健康相談及び乳がん予防等の普及啓発を行う。

事業対象

中高年期の女性

事業実施体制・展開

■事業実施内容

（コーナー実施内容）

①乳がん触診モデルを用いた自己検診の指導

保健師による乳がん触診モデルを用いた自己検診指導を行う。

②がん予防普及啓発及びがん検診受診勧奨（検診受付）

がん予防パネルの展示、リーフレットの配布等の普及啓発を行い、積極的な受診勧奨を行う。

③健康相談

健康に悩みを抱えている方に対して、保健師・栄養士による個別健康相談や健康教育を行う。

④身体計測（身長・体重・体脂肪率・血圧）及び脳年齢測定

計測を希望される方に、上記の計測を行う。

■実施体制

本事業は区の職員（保健師、栄養士等）にて対応する。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ①来場者数 約 150 人
- ②健康相談数 24 人
- ③がん検診受付数 23 人
- ④乳がん自己検診指導数 114 人
- ⑤計測参加者数 身体測定 48 人、血圧 58 人、脳年齢 59 人

事業の工夫点

乳がん予防月間（10月）での事業実施であったため、乳がん予防に関心をもってもらえるよう、乳がん自己検診指導や受診勧奨等の事業内容を検討した。またこのコーナーに参加することで、自分の健康状態を簡単に測定でき、その結果を保健師がアドバイスできるよう、計測コーナーや健康相談の充実を図った。

事業の効果についての評価・考察

女性の健康支援専門部会において、委員より本事業の効果について下記評価があった。

- ①健康への関心がさらに高まるための自己変容には、本事業のような地道な個別対応をした啓発活動が重要である。今後も継続して欲しい。
- ②中高年女性があげなければならぬ情報を、判りやすく提供できていた。
- ③来場者アンケートによる参加者の感想から、満足度は高かったと判断できるため、企画及び内容について高く評価できる。
- ④本事業の内容であれば、区内の他のイベント内での実施も可能である。
- ⑤食事を作ることや子供に食べさせることが多い女性にとって、食育と女性の健康の組み合わせは、女性が大変興味のあるイベントである。

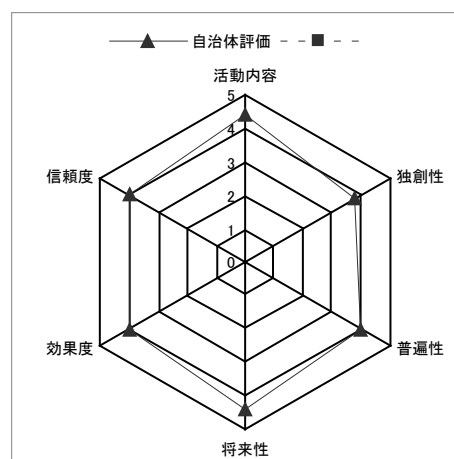
今後の課題

さらに来場者数を増やすための宣伝活動の工夫（広報媒体や事前告知活動等の検討）が必要である。開催場所についても、交通の便などを考え、より多くの人が集まりやすい場所を検討すべきである。

また、より効果的な事業にするためには、区単独で実施するだけでなく、専門知識を持った実績ある地域企業との連携も検討する必要がある。

ホームページ	http://www.city.shinjuku.lg.jp/
照会先	新宿区健康部健康推進課 健康事業係 03-5273-3047

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.4	内容の充実度は大変良かったが、事前広報がやや不足している。
②独創性	3.8	他の地域でも類似のイベントは実施されているが、食育との組み合わせは独自性がある。
③普遍性	4.0	同様の内容で他地域にも応用が可能である。
④将来性	4.4	検診推進活動は恒常性のあるものだから、今後も持続可能である。
⑤効果度	4.0	来場者アンケート結果より、関心を寄せた女性が増えたと考察できる。
⑥信頼度	4.0	来場者アンケート及び評価報告から信頼性はある。



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性特有のがん検診推進事業
分野	■啓発活動 ■健康教育 □健康相談
事業費（千円）	571 千円

事業目的

女性が、生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を過ごすことができるよう、乳がん・子宮がんの予防や早期発見のために情報提供を行い、がん検診の受診を促進するとともに正しい健康意識の普及啓発を図る。

事業対象

20 歳から中高年期の女性

事業実施体制・展開

①普及啓発用ブックカバーの作成及び配布

女性特有のがん情報の提供、がん検診受診の促進を目的として、区内の大型書店と協働し、女性の健康に関する情報等を掲載した新宿区オリジナルのブックカバーの作成及び配布を行う。

②子宮頸がん検診・乳がん検診無料クーポン券・検診手帳等の配布

国の「女性特有のがん検診推進事業」に基づき、特定年齢の女性に対し、子宮頸がん検診・乳がん検診無料クーポン券・検診手帳等の配布を行う。

③ピンクリボンバナーの掲出

10月の乳がん予防月間にあわせて、バナー掲出による乳がんの早期発見・早期治療の重要性を伝える啓発活動を行う。

④「ピンクリボン in 東京 2009」におけるブースの出展

都が乳がん検診の普及啓発活動に取り組む一環として行っている「ピンクリボン in 東京 2009」のイベントに参加し、ブースを出展する。

事業目標・評価項目 及び その結果

①普及啓発用ブックカバー 作成配布総数 30,000 部 (2 種類)

②無料クーポン対象者数 子宮頸がん検診 13,870 人 乳がん検診 10,356 人

③ピンクリボンバナー掲出 歌舞伎町一丁目内の街路灯 44 ヶ所に設置

④「ピンクリボン in 東京 2009」におけるブースの来場者数 約 149 人

⑤子宮がん検診の受診率 10.4%、乳がん検診の受診率 13.2% (平成 20 年度実績)

事業の工夫点

女性特有のがん検診（子宮がん、乳がん）は受診率が低く、特に若年層の受診率が低迷化している。普及啓発用ブックカバーは、若年層にも受け入れられるようなデザインにし、若年層に多い健康問題等を掲載し配布することで、普及啓発を行っている。また、乳がん予防月間に合わせ、乳がんに関する予防や正しい知識を提供するために、ブースの出展やバナー掲出を行うなど、積極的に普及啓発を行っている。

事業の効果についての評価・考察

女性の健康支援専門部会において、委員より本事業の効果について下記評価があった。

- ①検診受診に対する直接的アプローチであり、効果の期待度も大きい事業である。
- ②東京都のイベントに参加しており、区民以外の人も集まる場での普及啓発活動を行っていたため、波及効果が大きいと考えられる。
- ③無料クーポン、検診手帳の配布により、受診率の向上に直接的効果があったと判断できる。
- ④ブックカバーの配布は、身近な物からの啓発活動として評価できる。また、区内の大型書店とのタイアップは、社会資源の有効活用であり、新宿区の特徴を捉えたものである。配布場所等をさらに拡大することで、啓発活動と共に、がん検診普及への効果度が高まると推測される。
- ⑤多様な手法で情報発信を行っており、積極的に啓発活動に取り組んでいる。

今後の課題

現時点では、今年度の正確な検診受診率が算出できないことから、受診率向上という観点での本事業の評価は難しい。検診受診率やクーポン利用者数等の実績状況が判明した上で、受診率をより上げるための課題を抽出し、年代ごとに応じた対応策等を考える必要がある。

ホームページ	http://www.city.shinjuku.lg.jp/
照会先	新宿区健康部健康推進課 健康事業係 03-5273-3047

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.5	がん検診者数を増やす直接的な活動である。
②独創性	3.8	他地域においても同様な事業が実施されているが、ブックカバーの配布は独創性がある。
③普遍性	4.0	ブース出展やバナー掲出によるインパクトは大きいため、他地域への応用が期待される。
④将来性	4.3	がんの早期発見に欠かせない検診の普及啓発であるため、区民の多くが継続を望む活動である。
⑤効果度	4.5	直接的な受診勧奨のため効果の期待度も大きい。
⑥信頼度	4.0	検診の実施率によって評価される部分が多い。

